

週刊センターニュース No.197



第197号(2008年3月5日)毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第175回

日時：3月14日(金)13:00~14:30

会場：角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

題目：「FD実践と個別授業の改善」

講演者：佐藤 浩章(愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室)

趣旨：愛媛大学ではミクロレベル(授業)、ミドルレベル(カリキュラム)、マクロレベル(組織)の3層でFDを進めている。とりわけミクロレベルでの改善においては、授業コンサルテーションと呼ばれる、コンサルタントによる授業診断・改善案の模索という取組みが特徴的である。その具体的な進め方、有効性と課題について報告する。

佐藤氏は、愛媛大学において授業コンサルティング、カリキュラムコンサルティング、能力開発コンサルティングを含めた総合的な授業コンサルテーションを実践するのみならず、ファカルティ・デベロッパー養成講座等、日本で先例のない様々な取組みを精力的に進めています。授業改善、FDプログラム開発など大学(教員)の教育力向上に関心をお持ちの方、是非ご参加下さい。

第176回

日時：3月18日(火)10:00~11:30

会場：角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

テーマ：「大学・社会生活論(新聞の読み方)の授業内容-授業ビデオによる検討-」

担当者：古畑 徹(共通教育機構長)、西山 宣昭(大学教育開発・支援センター)

趣旨：4月より1年次必須「大学・社会生活論」の授業項目として新たに「新聞の読み方」が加わる。現役の新聞社会部記者を講師に迎え、記事の作成過程について解説し、また記事作成の演習を通して「文章を書く」ことへの動機付けを目的とする。当該新聞社からは、事前に授業の改善点や要望を知らせてもらえればそれに対応したい旨の連絡を受けているので、講師予定者より入手した実際の講義を撮影したビデオに基づき意見交換を行い、改善点、要望などを整理したい。多くの教員の参加をお願いしたい。

第177回

日時：3月18日(火)15:30~17:00

会場：角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

題目：「金沢大学の教育の現状と課題」

講演者：鹿野 勝彦(教育担当理事)、古畑 徹(共通教育機構長)

趣旨：金沢大学の学士課程教育は4月の学域・学類への改組にともない大きく変わろうとしている。その基本的な制度設計はほぼ確定したが、具体的な内容についてはなお多くの課題を残している。この学習会が、それらの課題を確認するとともに、今後の方向性を探るきっかけとなることを念じている。

教育効果の検証について - 「第一回教育効果とFDに関する教員アンケート」に基づく報告(1) -

教育企画会議は2月、教育組織の抜本的な改組を前に、人材育成目的に合致した教育成果が得られているかどうかを分析・検証するため、また本学において必要なFDとは何かを検討するた

め、専任の全教員に対して、当センターのアンケート実施案に基づき、ICT教育推進室の協力を得て、標記アンケートをアカンサスポータル上で実施しました。お忙しい中、回答にご協力いただきました300名近い教員の方々に感謝申し上げます。アンケート結果は当センターで集計中であり、教育企画会議教育改革部会で分析・検討した後、同会議に報告の予定です。

回答者の属性を問う設問を含め全41問の所要回答時間は、各問10～20秒前後、合計10分前後であり、設問内容についての疑義は寄せられませんでした。こうしたアンケートにご回答いただくことで、教育効果・成果についての意識を高めていただき、同時に、回答分析結果により企画実施されるFD（大学設置基準改正により4月から義務化）が本学の実情に即したものとなり、教育力を向上させることが期待できます。本学『中期計画』は、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」として「教育の成果・効果の検証のため、・・・教員・・・等に対するアンケート調査などを実施して、目標達成の状況を分析・検証し、その結果を公表する」と明記しており、今後も引き続き、こうしたアンケート等により教育の成果・効果を検証することになります。

さて、専任の全教員を対象に、カリキュラムとそこに置かれた自らの授業科目の教育効果について、どのような評価をしているかを直接答えていただくアンケートは、本学での実施が初めてというだけでなく、おそらく、日本の高等教育機関において、他に例をみないと思われます。

もちろん、大学評価において、これまでも、教育の成果・効果の検証は行われてきました。『点検評価書 平成17年度 金沢大学』では、基準6「教育の成果」に記されています「教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること」について、「本学の教育は教養教育と専門教育がうまくかみ合い、ほぼ所期の教育目標通りの成果を上げている」と結論付けています。この判断は、「単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準」、「学生の授業評価結果」、そして「卒業（修了）生や、就職先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取（した）」結果によるものです。「単位取得・・・」は、教員が教育効果について肯定的に評価していることを間接的に示すものといえます。

また、共通教育について、大学評価・学位授与機構による『教養教育評価報告書 平成15年3月』で、「目的及び目標で意図した実績や効果の状況」を「履修状況や学生による授業評価結果」と「専門教育履修段階や卒業後の状況」から判断し、「これらの評価結果を総合的に判断すると、目的及び目標で意図した実績や効果がかなり挙がっているが、改善の必要がある」（機構が示した5段階評価の3に該当）との評価でした。その判断根拠となった資料の一つは、学部長等のアンケートでした。

すなわち、「各学部の教務関係事項を把握できる責任者（学部長又は教務委員長）を対象に、現4年生を判断対象として、教養教育の目的としたものがどの程度養われたかをアンケート調査した結果（5段階。5. ほぼ全学生で養われている、4. だいたいの学生は養われている、3. ほぼ半数の学生は養われている、2. あまり養われている学生はいない、1. まったく養われている学生はいない）によると、当該大学の教養教育の目的に關した5項目について、それぞれ「批判的精神をもって自ら考え判断する力」3.7、「幅広いものの見方」3.6、「深い洞察力」3.2、「基礎学力（英語力・情報処理能力・日本語能力等）」3.2、「人間の尊厳を踏まえた倫理観」3.6、総合評点3.4 となっている。項目によるばらつきはあるが、総合的には半数を超える学生で養われていると判断されており、相応である」というものでした。共通教育が全学出席方式で実施されていることから考えますと、これもまた、教育効果についての教員自身による評価といえるものでした。

当センターでは、このような教育効果についての評価に関する根拠付けを確認する中で、組織としての教育力を高めるためには、個々の教員の授業力向上が必要であり、そのためには全教員に対する、教育効果とFDに関するアンケートの実施が必要と考えました。アンケートに回答することが、優れた意味でそのままFDとなるよう、まず、各授業科目が置かれたカリキュラムの目標、および当該科目の位置づけを教員自身が正確に理解することを促し、その上で、当該科目がその目標に近づくためにどれほどの効果を及ぼしているかの自己評価を教員に求め、そして授業で目標に近づいていないと判断する場合、その原因について教員自身に振り返っていただくことを目指しました。その上で、教育効果を高めるために、今、本学の教員に必要な（いわばジャスト金沢大学サイズの）FD企画につなげるための設問を行った次第です。

今後、本紙およびアカンサスポータルにおいて、適宜、教育企画会議教育改革部会（新しい教育担当理事のもとで、4月下旬以降に発足と思われます）でのアンケート結果分析結果、あるいは、当センターの分析による提言等を紹介させていただきます。

（文責：教育支援システム研究部門 青野 透）